

広島県ひとり親家庭等自立支援施策の需要調査

報告書

令和6年9月

広島県

目 次

I	調査の概要	
1.	調査目的	3
2.	調査項目	3
3.	調査設計	4
4.	回収結果	4
II	調査結果	
1.	本人及び家族の状況	5
2.	就労状況	10
3.	公的制度	12
4.	世帯の収入	16
5.	全般について	20
6.	相談窓口等	21
7.	自由意見	27
III	調査票	29

I 調査の概要

1. 調査目的

広島県では、母子及び父子並びに寡婦福祉法第12条に基づき、ひとり親家庭等の福祉施策の基本となる自立促進計画の策定に取り組むこととしています。

この調査は、広島県子供の未来応援プランに掲げる目指す姿「すべての子供たちが、成育環境の違いに関わらず、健やかに夢を育むことのできる社会」を実現するため、県内のひとり親家庭の皆さまの生活状況・就労状況等を把握し、支援施策を検討するためのものです。

2. 調査項目

(1) 本人及び家族の状況

- ①本人の生年月
- ②居住地
- ③世帯員数
- ④ひとり親世帯になった時期、理由
- ⑤最終学歴
- ⑥子どもの人数
- ⑦子どもの生年月
- ⑧子どもの就学・就業状況
- ⑨子どもの最終学歴

(2) 就労状況

- ①雇用形態
- ②就業希望
- ③求職中でない理由

(3) 公的制度

- ①公的制度の利用状況
- ②支援策の情報源

(4) 世帯の収入

- ①世帯の年間総収入
- ②本人の年間総収入
- ③本人の年間就労収入

(5) 全般について

- ①困っていること（ひとり親になった当時、現在）
- ②相談窓口等の利用状況
- ③相談窓口があれば良いと思う機能
- ④相談しやすい方法

3. 調査設計

(1) 調査対象

広島県全域寡婦世帯のうち 100 世帯

(2) 抽出方法

一般財団法人広島県ひとり親家庭等福祉連合会および広島市母子寡婦福祉連合会の
会員名簿から無作為に抽出

(3) 調査方法

郵送調査法

(調査対象世帯に調査票を郵送し、各世帯より郵送にて回収した)

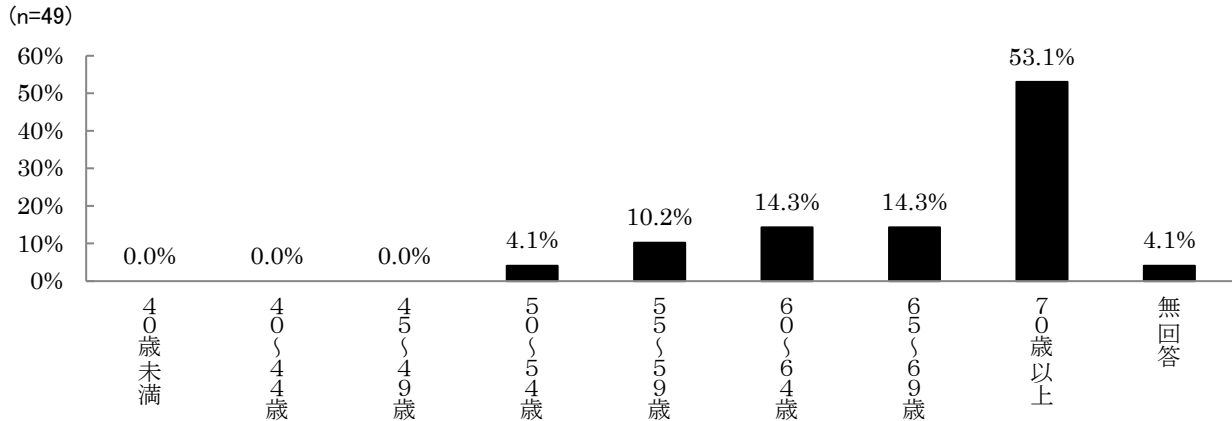
4. 回収結果

配布数	有効回収数	有効回収率
100 票	49 票	49.0%

Ⅱ 調査結果

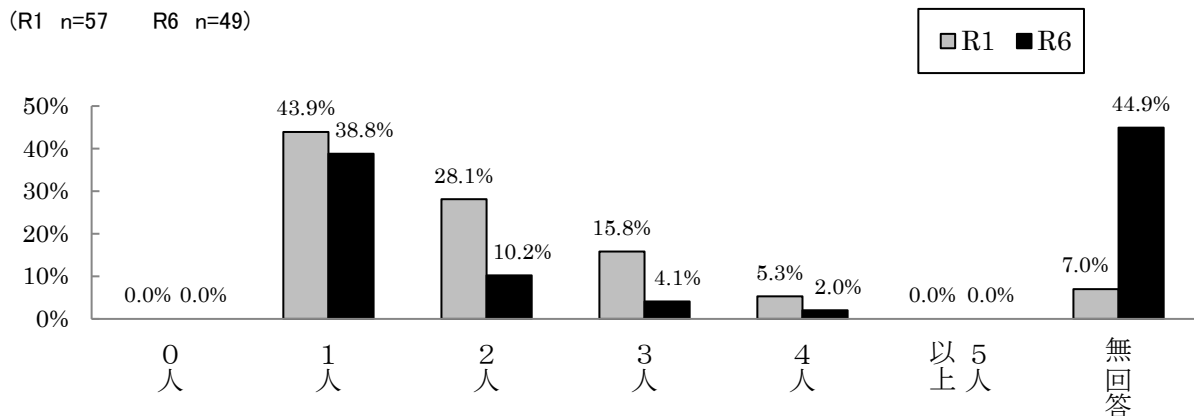
1. 本人及び家族の状況

(1) 本人の年齢



本人の年齢は、「70歳以上」(53.1%)の人の割合が最も高い。次いで「60～64歳」「65～69歳」(14.3%)、「55～59歳」(10.2%)、「50～54歳」「無回答」(4.1%)、「40歳未満」「40～44歳」「45～49歳」(0.0%)であった。

(2) 世帯員数

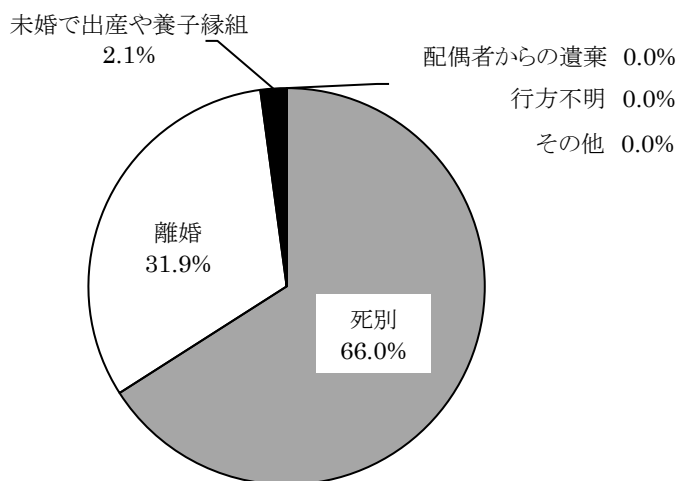


世帯員数(本人を除く)は、「1人」(38.8%)の割合が最も高い。次いで「2人」(10.2%)、「3人」(4.1%)、「4人」(2.0%)となっている。無回答は44.9%であった。

前回(R1年)調査と比較すると、「1人」は前回調査では43.9%、今回調査は38.8%と5.1ポイント減っている。「2人」は前回調査では28.1%、今回調査は10.2%と17.9ポイント減っている。「3人」は前回調査では15.8%、今回調査は4.1%と11.7ポイント減っている。「4人」は前回調査では5.3%、今回調査は2.0%と3.3ポイント減っている。無回答が、前回調査では7.0%、今回調査は44.9%と37.9ポイント増えている。

(3) ひとり親世帯になった理由

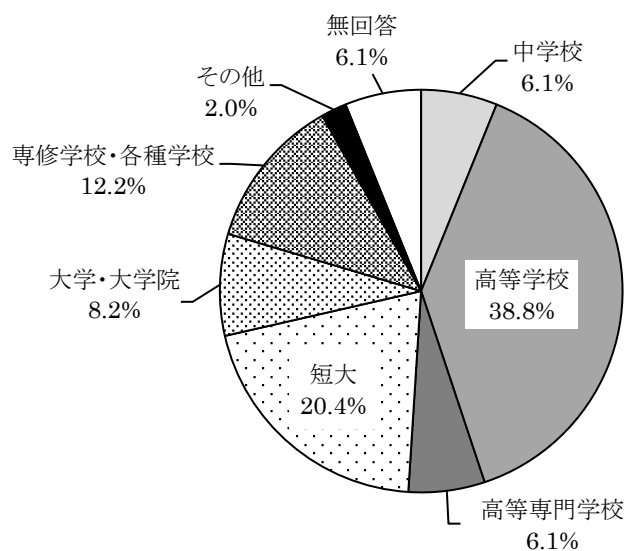
(n=47)



ひとり親世帯になった理由は、「死別」(66.0%)と回答した人の割合が最も高い。次いで「離婚」(31.9%)、「未婚で出産や養子縁組」(2.1%)となっている。「配偶者からの遺棄」「行方不明」「その他」は0.0%であった。

(4) 最終学歴

(n=49)

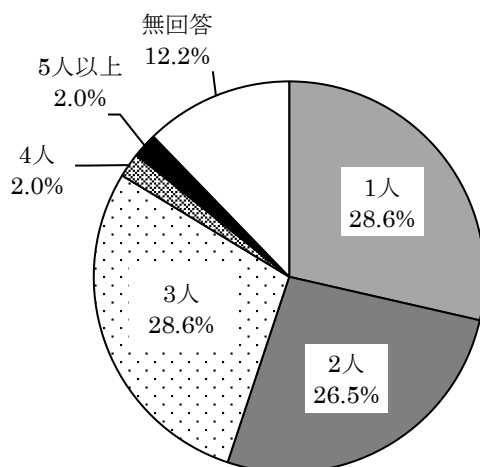


本人の最終学歴は、「高等学校」(38.8%)と回答した人の割合が最も高く、次いで「短大」(20.4%)、「専修学校・各種学校」(12.2%)、「大学・大学院」(8.2%)、「中学校」「高等専門学校」「無回答」(6.1%)、「その他」(2.0%)となっている。

(5) 子どもについて

①子どもの人数

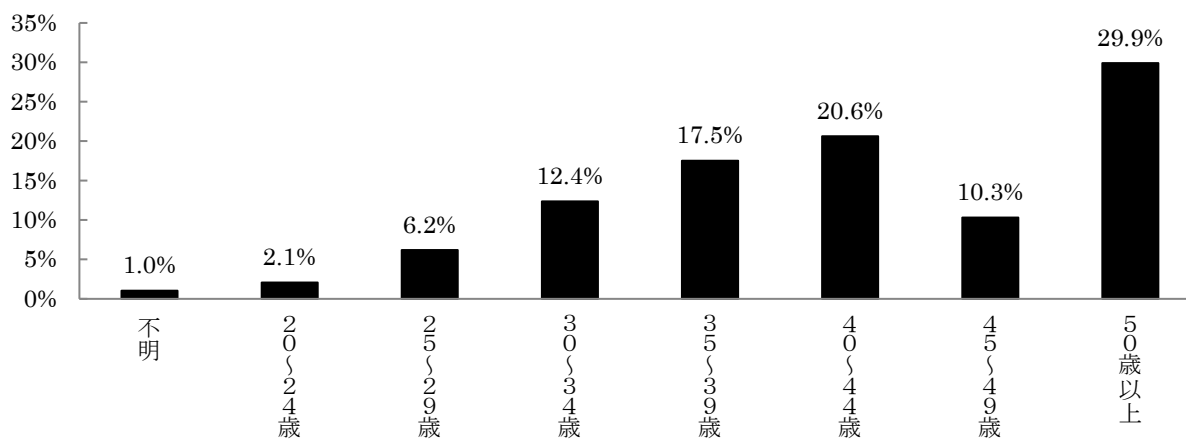
(n=49)



子どもの人数は、「1人」「3人」(28.6%)と回答した人の割合が最も高い。次いで「2人」(26.5%)、「4人」「5人以上」(2.0%)となっている。無回答は12.2%であった。

②子どもの年齢

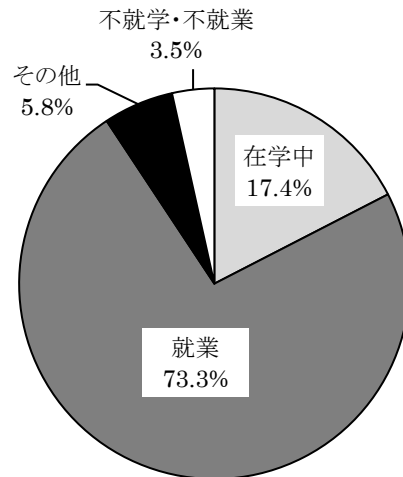
(n=97)



子どもの年齢は、「50歳以上」(29.9%)と回答した人の割合が最も高い。次いで「40～44歳」(20.6%)、「35～39歳」(17.5%)、「30～34歳」(12.4%)、「45～49歳」(10.3%)、「25～29歳」(6.2%)、「20～24歳」(2.1%)、「不明」(1.0%)となっている。

③子どもの就学・就業状況

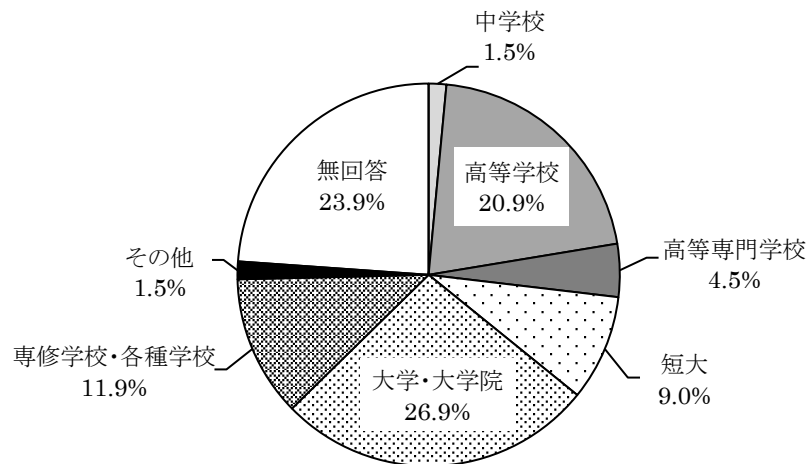
(n=86)



子どもの就学・就業状況を聞いたところ、「就業」(73.3%)と答えた人の割合が最も高い。次いで「在学中」(17.4%)、「その他」(5.8%)、「不就学・不就業」(3.5%)と続いた。

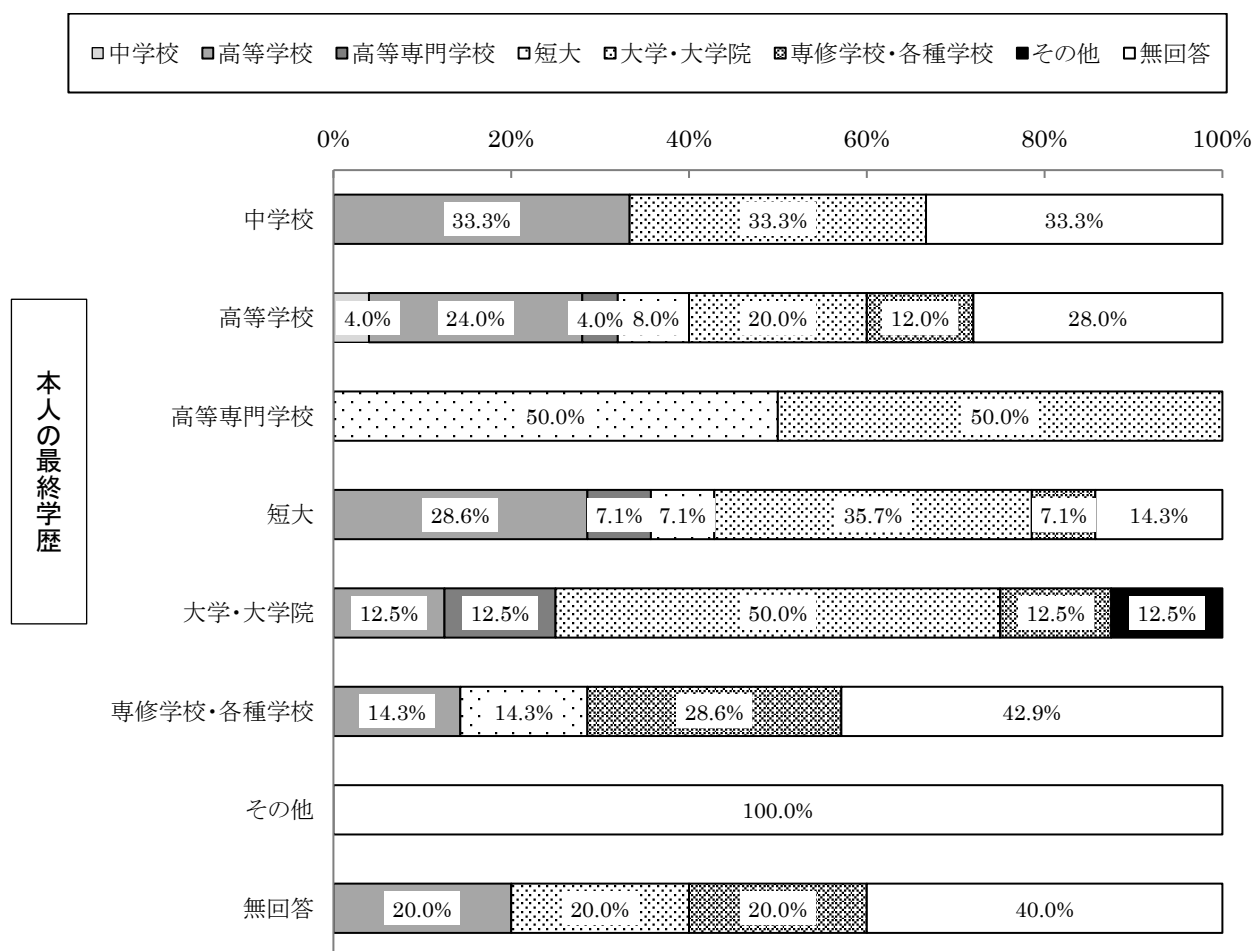
④子どもの最終学歴

(n=67)



子どもの就学・就業状況で「その他」「就業」「不就学・不就業」と回答した人に、子どもの最終学歴を聞いたところ、「大学・大学院」(26.9%)と答えた人の割合が最も高く、「高等学校」(20.9%)、「専修学校・各種学校」(11.9%)、「短大」(9.0%)、「高等専門学校」(4.5%)、「中学校」「その他」(1.5%)と続いた。無回答は23.9%であった。

⑤本人の最終学歴別 子どもの最終学歴



本人の最終学歴別に子どもの最終学歴を集計した。

「中学校」と回答した人は、子どもの最終学歴は「高等学校」「大学・大学院」「無回答」（それぞれ 33.3%）であった。

「高等学校」と回答した人は、子どもの最終学歴は「無回答」（28.0%）、「高等学校」（24.0%）、「大学・大学院」（20.0%）、「専修学校・各種学校」（12.0%）、「短大」（8.0%）、「中学校」「高等専門学校」（それぞれ 4.0%）であった。

「高等専門学校」と回答した人は、子どもの最終学歴は「短大」「大学・大学院」（それぞれ 50.0%）であった。

「短大」と回答した人は、子どもの最終学歴は「大学・大学院」（35.7%）、「高等学校」（28.6%）、「無回答」（14.3%）、「高等専門学校」「短大」「専修学校・各種学校」（それぞれ 7.1%）であった。

「大学・大学院」と回答した人は、子どもの最終学歴は「大学・大学院」（50.0%）、「高等学校」「高等専門学校」「専修学校・各種学校」「その他」（それぞれ 12.5%）であった。

「専修学校・各種学校」と回答した人は、子どもの最終学歴は「無回答」（42.9%）、「専修学校・各種学校」（28.6%）、「高等学校」「短大」（それぞれ 14.3%）であった。

「その他」と回答した人は、子どもの最終学歴は「無回答」（100.0%）であった。

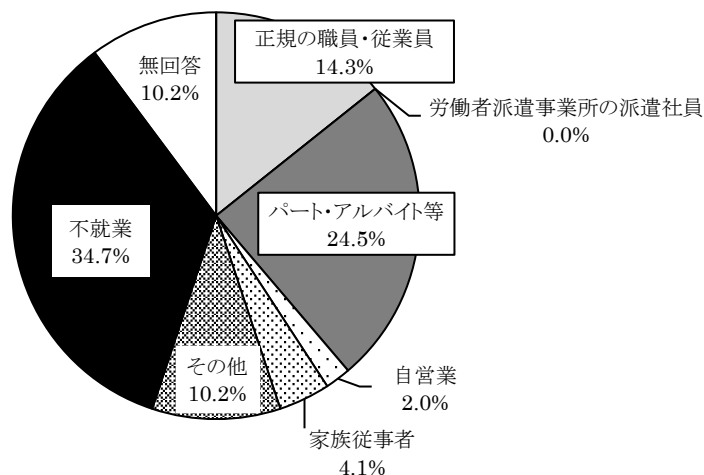
「無回答」の人は、子どもの最終学歴は「無回答」（40.0%）、「高等学校」「大学・大学院」「専修学校・各種学校」（それぞれ 20.0%）であった。

2. 就労状況

(1) 雇用形態

あなたの現在の雇用形態について、お答えください。【〇は1つ】

(n=49)



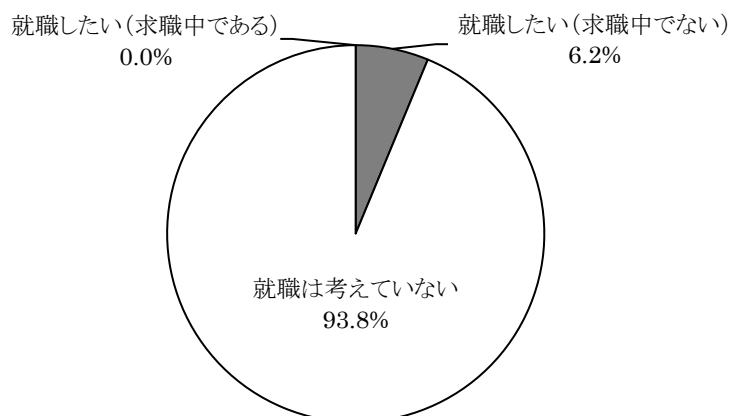
現在の雇用形態は、「不就業」(34.7%)と回答した人の割合が最も高い。次いで「パート・アルバイト等」(24.5%)、「正規の職員・従業員」(14.3%)、「その他」「無回答」(10.2%)、「家族従事者」(4.1%)、「自営業」(2.0%)、「労働者派遣事業所の派遣社員」(0.0%)であった。

(2) 就職希望

雇用形態で「不就業」と回答した人におたずねします。

就職する希望がありますか。【〇は1つ】

(n=16)



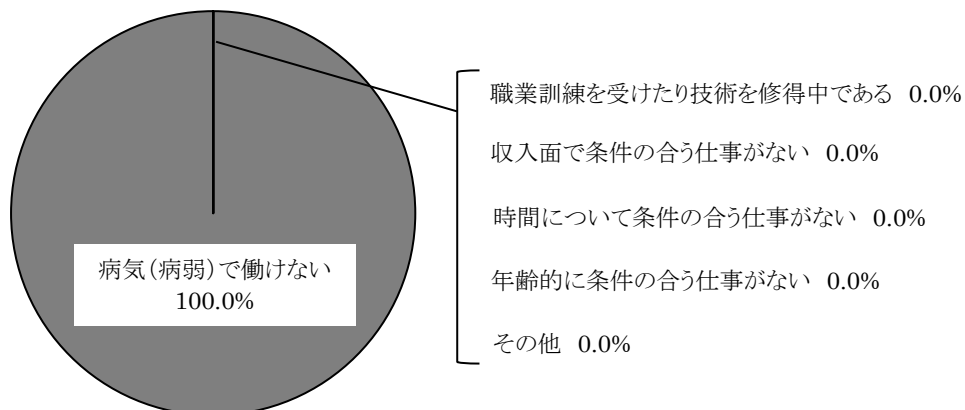
雇用形態を不就業と回答した人に就職希望があるかどうか聞いたところ、「就職は考えていない」(93.8%)と回答した人の割合が最も高い。次いで「就職したい(求職中でない)」(6.2%)、「就職したい(求職中である)」(0.0%)であった。

(3) 求職中でない理由

「就職したい（求職中でない）」と回答した人におたずねします。

求職中でない理由のうち、最も大きな理由は何ですか。【〇は最もあてはまるもの1つ】

(n=1)



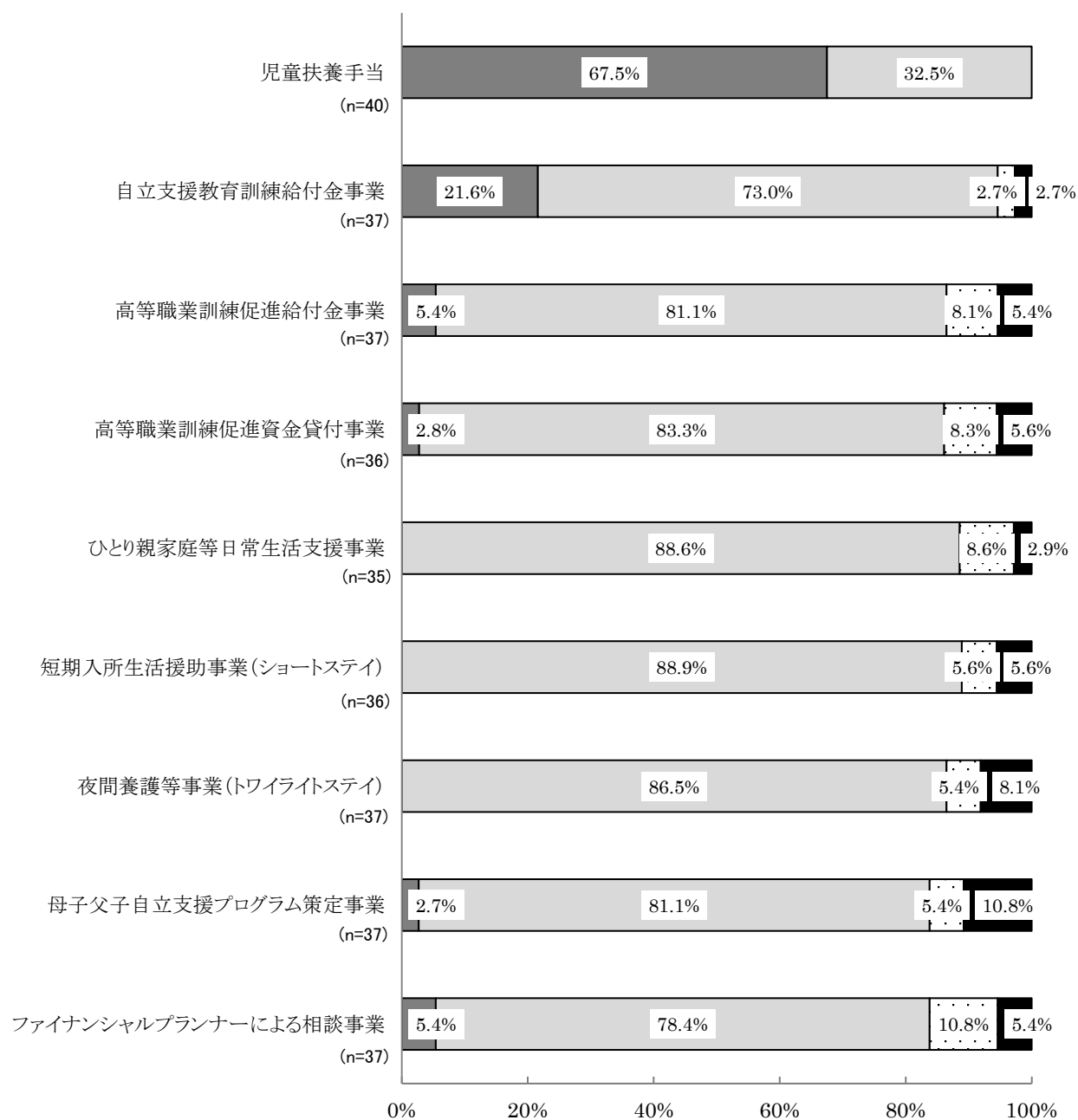
「就職したい（求職中でない）」と回答した人に、求職中でない理由のうち、最も大きな理由を聞いたところ、「病気（病弱）で働けない」（100.0%）であった。「職業訓練を受けたり技術を習得中である」「収入面で条件の合う仕事がない」「時間について条件の合う仕事がない」「年齢的に条件の合う仕事がない」は0.0%であった。

3. 公的制度

(1) 公的制度の利用

あなたは次の公的制度を利用したことがありますか。【○はそれぞれ1つ】

- 【知っている】利用したことがある又は利用している(今後利用予定含む)
- 【知っている】利用したことはなく、今後も利用するつもりはない
- 【知らない】今後、利用したい
- 【知らない】利用したくない



公的制度を利用したことがあるかどうか聞いた。

「児童扶養手当」は、「【知っている】利用したことがある又は利用している（今後利用予定含む）」(67.5%)と回答した人の割合が最も高く、「【知っている】利用したことはなく、今後も利用するつもりはない」(32.5%)と続いた。

「自立支援教育訓練給付金事業」は、「【知っている】利用したことはなく、今後も利用するつもりはない」(73.0%)と回答した人の割合が最も高く、「【知っている】利用したことがある又は利用している（今後利用予定含む）」(21.6%)、「【知らない】今後、利用したい」「【知らない】利用したくない」(2.7%)と続いた。

「高等職業訓練促進給付金事業」は、「【知っている】利用したことはなく、今後も利用するつもりはない」(81.1%)と回答した人の割合が最も高く、「【知らない】今後、利用したい」(8.1%)、「【知っている】利用したことがある又は利用している（今後利用予定含む）」、「【知らない】利用したくない」(5.4%)と続いた。

「高等職業訓練促進資金貸付事業」は、「【知っている】利用したことはなく、今後も利用するつもりはない」(83.3%)と回答した人の割合が最も高く、「【知らない】今後、利用したい」(8.3%)、「【知らない】利用したくない」(5.6%)、「【知っている】利用したことがある又は利用している（今後利用予定含む）」(2.8%)と続いた。

「ひとり親家庭等日常生活支援事業」は、「【知っている】利用したことはなく、今後も利用するつもりはない」(88.6%)と回答した人の割合が最も高く、「【知らない】今後、利用したい」(8.6%)、「【知らない】利用したくない」(2.9%)と続いた。

「短期入所生活援助事業（ショートステイ）」は、「【知っている】利用したことはなく、今後も利用するつもりはない」(88.9%)と回答した人の割合が最も高く、「【知らない】今後、利用したい」「【知らない】利用したくない」(5.6%)と続いた。

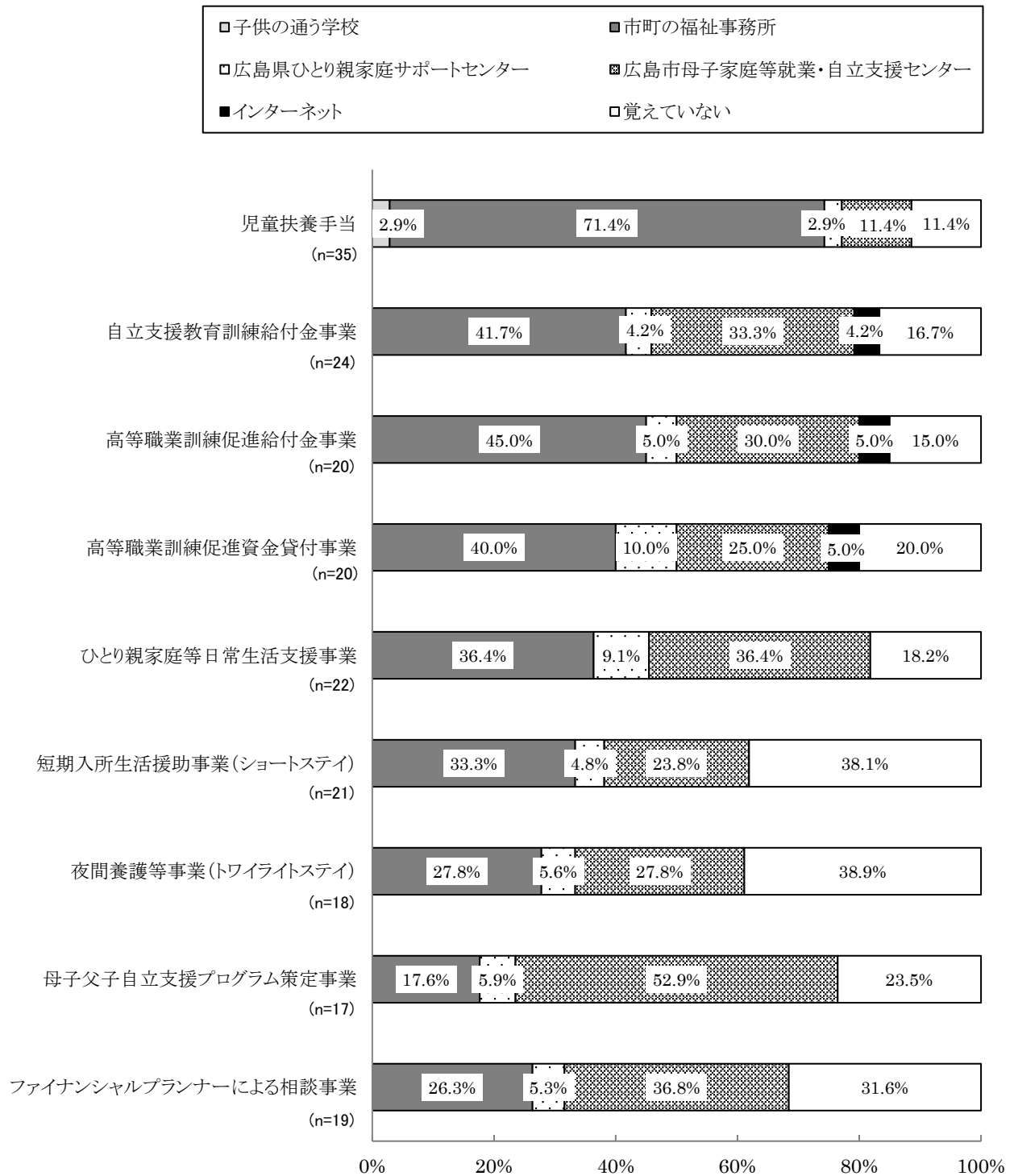
「夜間養護等事業（トワイライトステイ）」は、「【知っている】利用したことはなく、今後も利用するつもりはない」(86.5%)と回答した人の割合が最も高く、「【知らない】利用したくない」(8.1%)、「【知らない】今後、利用したい」(5.4%)と続いた。

「母子父子自立支援プログラム策定事業」は、「【知っている】利用したことはなく、今後も利用するつもりはない」(81.1%)と回答した人の割合が最も高く、「【知らない】利用したくない」(10.8%)、「【知らない】今後、利用したい」(5.4%)、「【知っている】利用したことがある又は利用している（今後利用予定含む）」(2.7%)と続いた。

「ファイナンシャルプランナーによる相談事業」は、「【知っている】利用したことはなく、今後も利用するつもりはない」(78.4%)と回答した人の割合が最も高く、「【知らない】今後、利用したい」(10.8%)、「【知っている】利用したことがある又は利用している（今後利用予定含む）」、「【知らない】利用したくない」(5.4%)と続いた。

(5) 支援策の情報源

支援策について、どこで知りましたか【あてはまるすべてに○】



公的制度の支援策を知っていると回答した人に、どこで知ったかを聞いたところ、「児童扶養手当」は「市町の福祉事務所」(71.4%)と回答した人の割合が最も高く、「広島市母子家庭等就業・自立支援センター」「覚えていない」(11.4%)、「子供の通う学校」「広島県ひとり親家庭サポートセンター」(2.9%)と続いた。

「自立支援教育訓練給付金事業」は「市町の福祉事務所」(41.7%)と回答した人の割合が最も高く、「広島市母子家庭等就業・自立支援センター」(33.3%)、「覚えていない」(16.7%)、「広島県ひとり親家庭サポートセンター」「インターネット」(4.2%)と続いた。

「高等職業訓練促進給付金事業」は「市町の福祉事務所」(45.0%)と回答した人の割合が最も高く、「広島市母子家庭等就業・自立支援センター」(30.0%)、「覚えていない」(15.0%)、「広島県ひとり親家庭サポートセンター」「インターネット」(5.0%)と続いた。

「高等職業訓練促進資金貸付事業」は「市町の福祉事務所」(40.0%)と回答した人の割合が最も高く、「広島市母子家庭等就業・自立支援センター」(25.0%)、「覚えていない」(20.0%)、「広島県ひとり親家庭サポートセンター」(10.0%)、「インターネット」(5.0%)と続いた。

「ひとり親家庭等日常生活支援事業」は「市町の福祉事務所」「広島市母子家庭等就業・自立支援センター」(36.4%)と回答した人の割合が最も高く、「覚えていない」(18.2%)、「広島県ひとり親家庭サポートセンター」(9.1%)と続いた。

「短期入所生活援助事業(ショートステイ)」は「覚えていない」(38.1%)と回答した人の割合が最も高く、「市町の福祉事務所」(33.3%)、「広島市母子家庭等就業・自立支援センター」(23.8%)、「広島県ひとり親家庭サポートセンター」(4.8%)と続いた。

「夜間養護等事業(トワイライトステイ)」は「覚えていない」(38.9%)と回答した人の割合が最も高く、「市町の福祉事務所」「広島市母子家庭等就業・自立支援センター」(27.8%)、「広島県ひとり親家庭サポートセンター」(5.6%)と続いた。

「母子父子自立支援プログラム策定事業」は、「広島市母子家庭等就業・自立支援センター」(52.9%)と回答した人の割合が最も高く、「覚えていない」(23.5%)、「市町の福祉事務所」(17.6%)、「広島県ひとり親家庭サポートセンター」(5.9%)と続いた。

「ファイナンシャルプランナーによる相談事業」は、「広島市母子家庭等就業・自立支援センター」(36.8%)と回答した人の割合が最も高く、「覚えていない」(31.6%)、「市町の福祉事務所」(26.3%)、「広島県ひとり親家庭サポートセンター」(5.3%)と続いた。

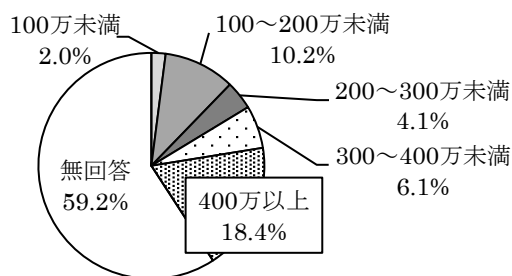
4. 世帯の収入

(1) 収入

令和5年のあなたの世帯の年間総収入、あなた自身の年間総収入及び年間就労収入の金額を記入してください。【数字を記入】

① 同居親族を含む世帯の年間総収入

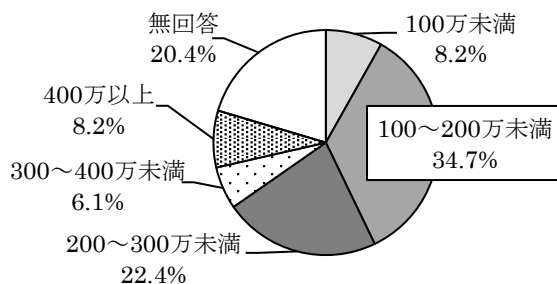
(n=49)



同居親族を含む世帯の年間総収入は、「400万円以上」(18.4%)と答えた人の割合が最も高く、「100～200万円未満」(10.2%)、「300～400万円未満」(6.1%)、「200～300万円未満」(4.1%)、「100万円未満」(2.0%)と続いた。無回答は59.2%であった。

② 本人の年間総収入

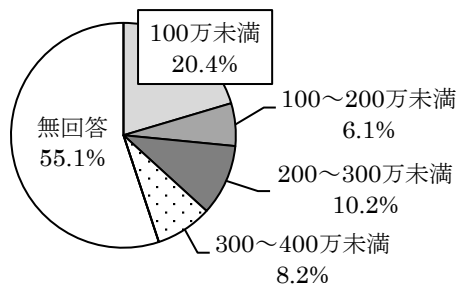
(n=49)



本人の年間総収入は、「100～200万円未満」(34.7%)と答えた人の割合が最も高く、「200～300万円未満」(22.4%)、「100万円未満」「400万円以上」(8.2%)、「300～400万円未満」(6.1%)と続いた。無回答は20.4%であった。

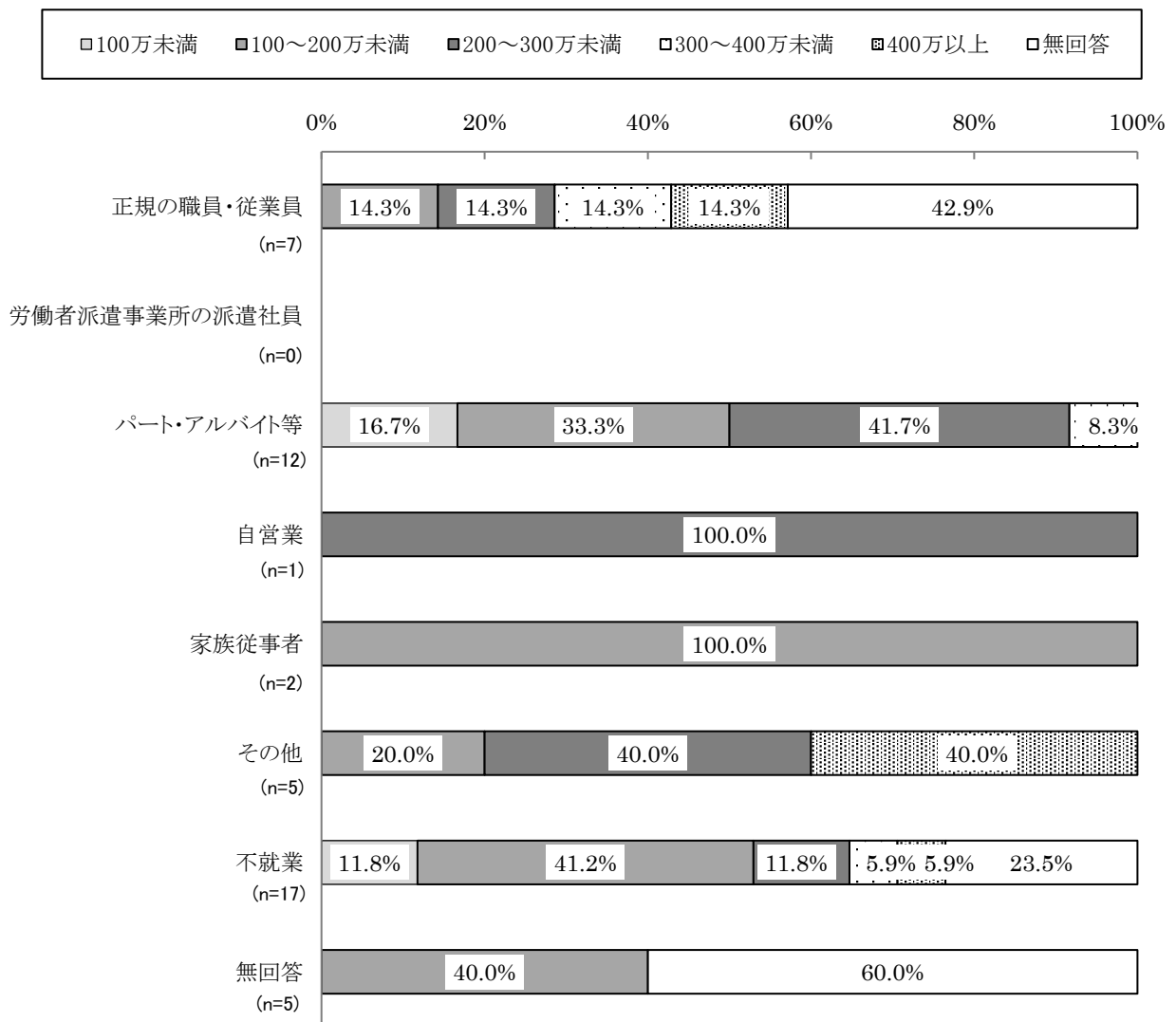
③ 本人の年間就労収入

(n=49)



本人の年間就労収入は、「100万円未満」(20.4%)と答えた人の割合が最も高く、「200～300万円未満」(10.2%)、「300～400万円未満」(8.2%)、「100～200万円未満」(6.1%)と続いた。無回答は55.1%であった。

④ 雇用形態別 本人の年間総収入



雇用形態別に本人の年間総収入を集計した。

「正規の職員・従業員」の人は、「無回答」(42.9%)、「100~200万未満」「200~300万未満」「300~400万未満」「400万以上」(14.3%)であった。

「パート・アルバイト等」の人は、「200~300万未満」(41.7%)、「100~200万未満」(33.3%)、「100万未満」(16.7%)、「300~400万未満」(8.3%)であった。

「自営業」の人は、「200~300万未満」(100.0%)であった。

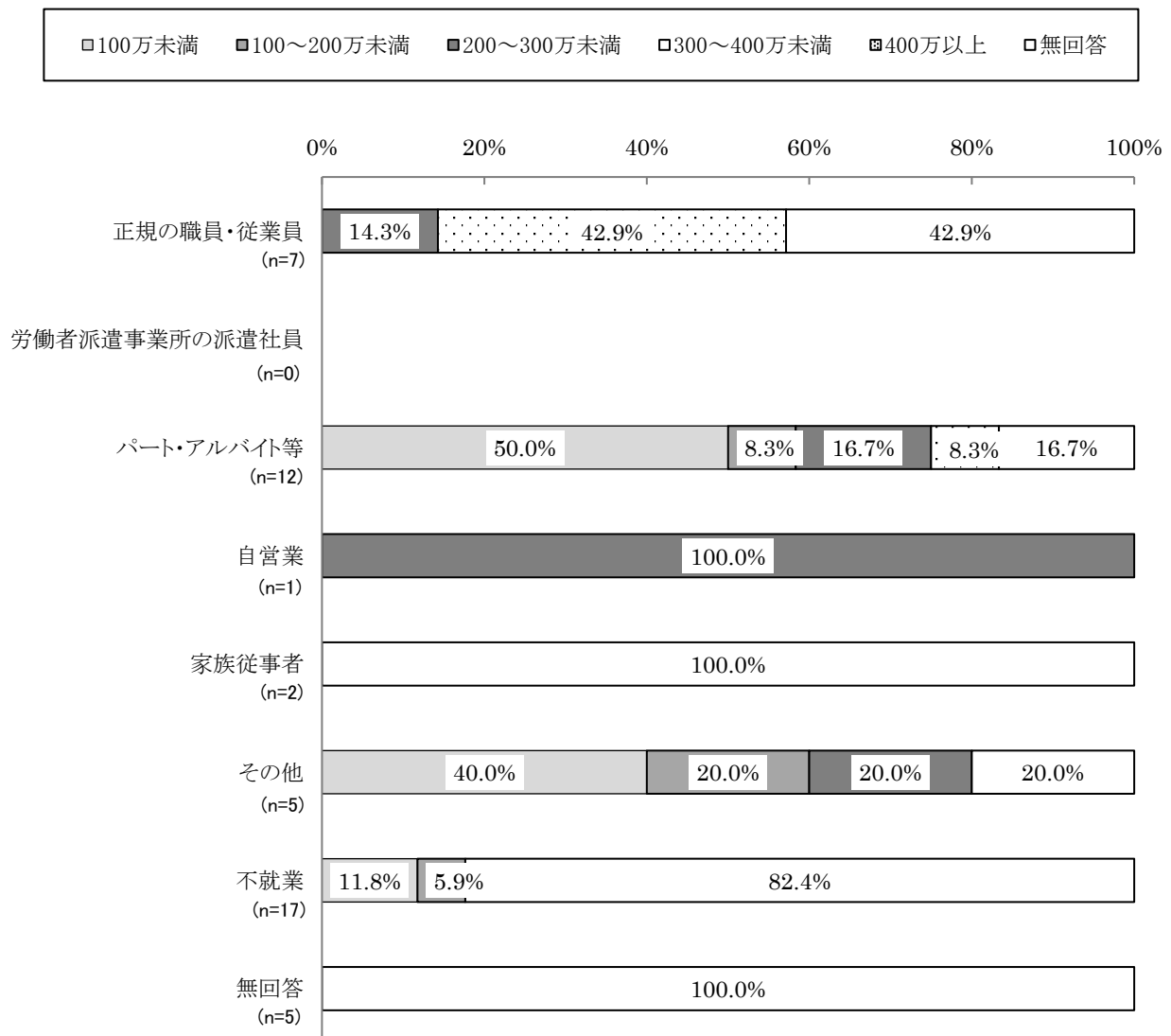
「家族従事者」の人は、「100~200万未満」(100.0%)であった。

「その他」の人は、「200~300万未満」「400万以上」(40.0%)、「100~200万未満」(20.0%)であった。

「不就業」の人は、「100~200万未満」(41.2%)、「無回答」(23.5%)、「100万未満」「200~300万未満」(11.8%)、「300~400万未満」「400万以上」(5.9%)であった。

「無回答」の人は、「無回答」(60.0%)、「100~200万未満」(40.0%)であった。

⑤ 雇用形態別 本人の年間就労収入



雇用形態別に本人の年間就労収入を集計した。

「正規の職員・従業員」の人は、「300～400万未満」「無回答」(42.9%)、「200～300万未満」(14.3%)であった。

「パート・アルバイト等」の人は、「100万未満」(50.0%)、「200～300万未満」「無回答」(16.7%)、「100～200万未満」「300～400万未満」(8.3%)であった。

「自営業」の人は、「200～300万未満」(100.0%)であった。

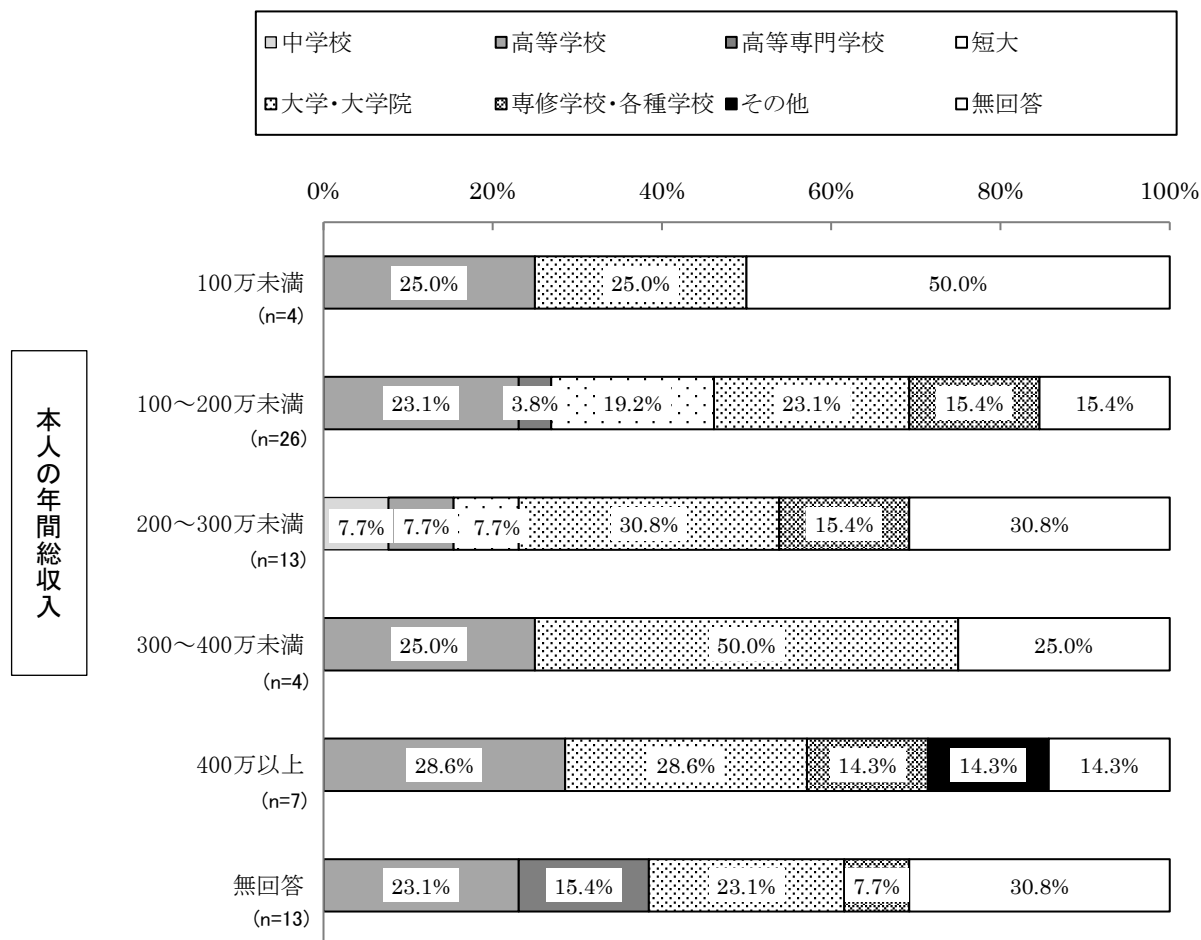
「家族従事者」の人は、「無回答」(100.0%)であった。

「その他」の人は、「100万未満」(40.0%)、「100～200万未満」「200～300万未満」「無回答」(20.0%)であった。

「不就業」の人は、「無回答」(82.4%)、「100万未満」(11.8%)、「100～200万未満」(5.9%)であった。

「無回答」の人は、「無回答」(100.0%)であった。

⑥本人の年間総収入別 子どもの最終学歴



本人の年間総収入別に子どもの最終学歴を集計した。

「100万未満」と回答した人は、子供の最終学歴は「無回答」（50.0%）、「高等学校」「大学・大学院」（それぞれ25.0%）であった。

「100~200万未満」と回答した人は、子供の最終学歴は「高等学校」「大学・大学院」（それぞれ23.1%）、「短大」（19.2%）、「専修学校・各種学校」「無回答」（それぞれ15.4%）、「高等専門学校」（3.8%）であった。

「200~300万未満」と回答した人は、子供の最終学歴は「大学・大学院」「無回答」（それぞれ30.8%）、「専修学校・各種学校」（15.4%）、「中学校」「高等学校」「短大」（それぞれ7.7%）であった。

「300~400万未満」と回答した人は、子供の最終学歴は「大学・大学院」（50.0%）、「高等学校」「無回答」（それぞれ25.0%）であった。

「400万以上」と回答した人は、子供の最終学歴は「高等学校」「大学・大学院」（それぞれ28.6%）、「専修学校・各種学校」「その他」「無回答」（それぞれ14.3%）であった。

「無回答」の人は、子供の最終学歴は「無回答」（30.8%）、「高等学校」「大学・大学院」（それぞれ23.1%）、「高等専門学校」（15.4%）、「専修学校・各種学校」（7.7%）であった。

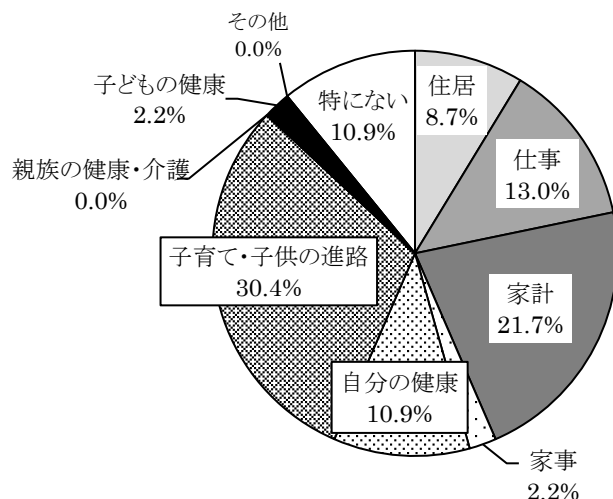
5. 全般について

(1) 困っていること

あなたが困っていることについて、お答えください。【〇は最もあてはまるもの1つ】

① ひとり親になった当時困っていたこと

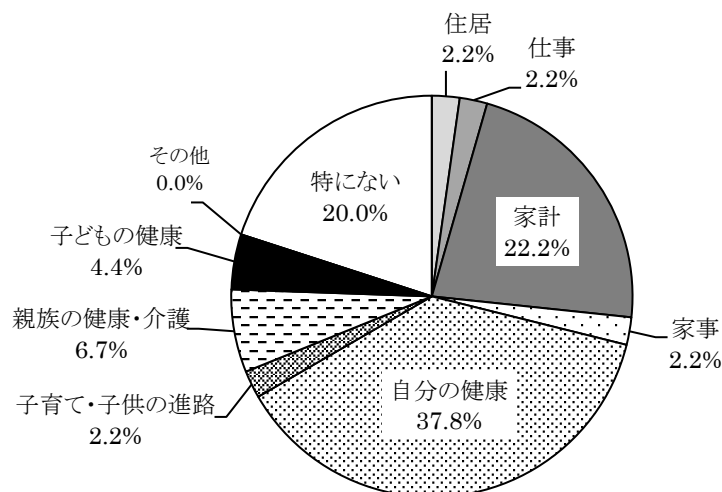
(n=46)



ひとり親になった当時、本人が最も困っていたことを聞いたところ、「子育て・子供の進路」(30.4%)、「家計」(21.7%)、「仕事」(13.0%)、「自分の健康」「特にない」(10.9%)、「住居」(8.7%)、「家事」「子どもの健康」(2.2%)と続いた。「親族の健康・介護」「その他」は0.0%であった。

② 現在困っている事

(n=45)

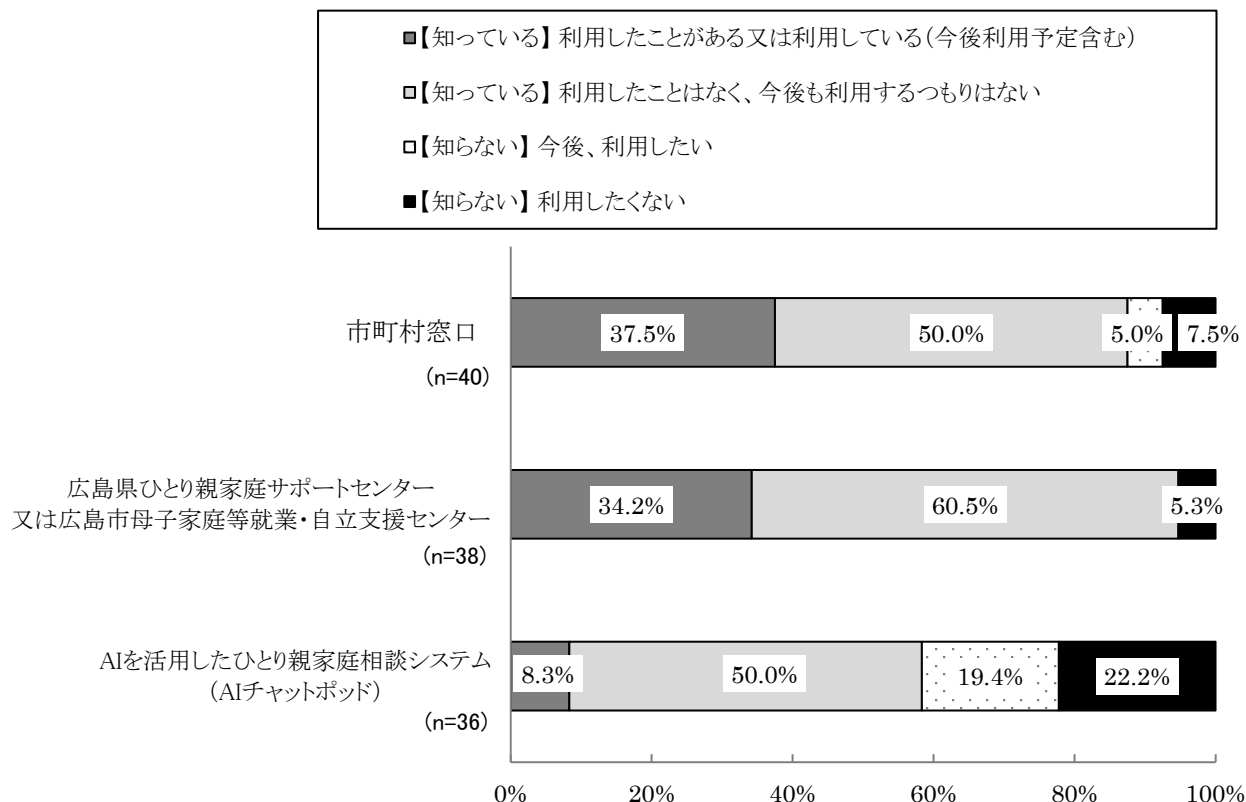


現在、本人が最も困っていることを聞いたところ、「自分の健康」(37.8%)と回答した人の割合が最も高く、次いで「家計」(22.2%)、「特にない」(20.0%)、「親族の健康・介護」(6.7%)、「子どもの健康」(4.4%)、「住居」「仕事」「家事」「子育て・子供の進路」(2.2%)と続いた。「その他」は0.0%であった。

6. 相談窓口等

(1) 相談窓口

あなたは次の相談窓口等を利用したことがありますか。【〇はそれぞれ1つ】



相談窓口を利用したことがあるかどうかを聞いたところ、「市町村窓口」は「【知っている】利用したことはなく、今後も利用するつもりはない」(50.0%)、「【知っている】利用したことがある又は利用している(今後利用予定含む)」(37.5%)、「【知らない】利用したくない」(7.5%)、「【知らない】今後、利用したい」(5.0%)であった。

「広島県ひとり親家庭サポートセンター 又は広島市母子家庭等就業・自立支援センター」は、「【知っている】利用したことはなく、今後も利用するつもりはない」(60.5%)、「【知っている】利用したことがある又は利用している(今後利用予定含む)」(34.2%)、「【知らない】利用したくない」(5.3%)であった。

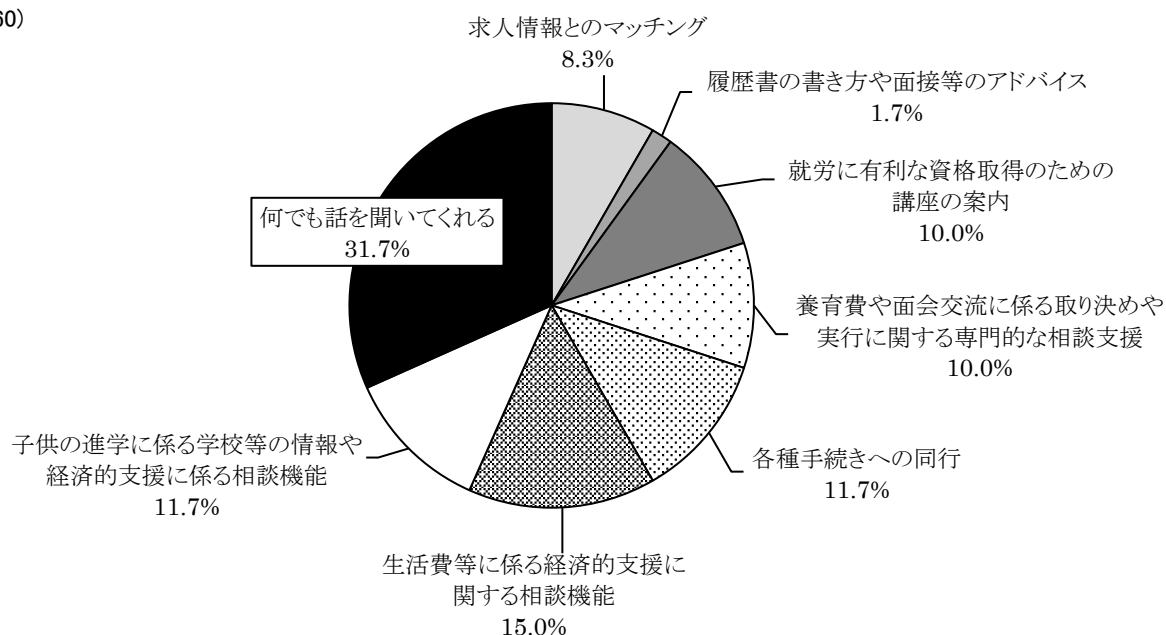
「AIを活用したひとり親家庭相談システム(AIチャットボット)」は、「【知っている】利用したことはなく、今後も利用するつもりはない」(50.0%)、「【知らない】利用したくない」(22.2%)、「【知らない】今後、利用したい」(19.4%)、「【知っている】利用したことがある又は利用している(今後利用含む)」(8.3%)であった。

(2) 相談窓口があれば良いと思う機能

相談窓口があれば良いと思う機能は何ですか。【主なものを2つまで選択】

① 相談窓口があれば良いと思う機能

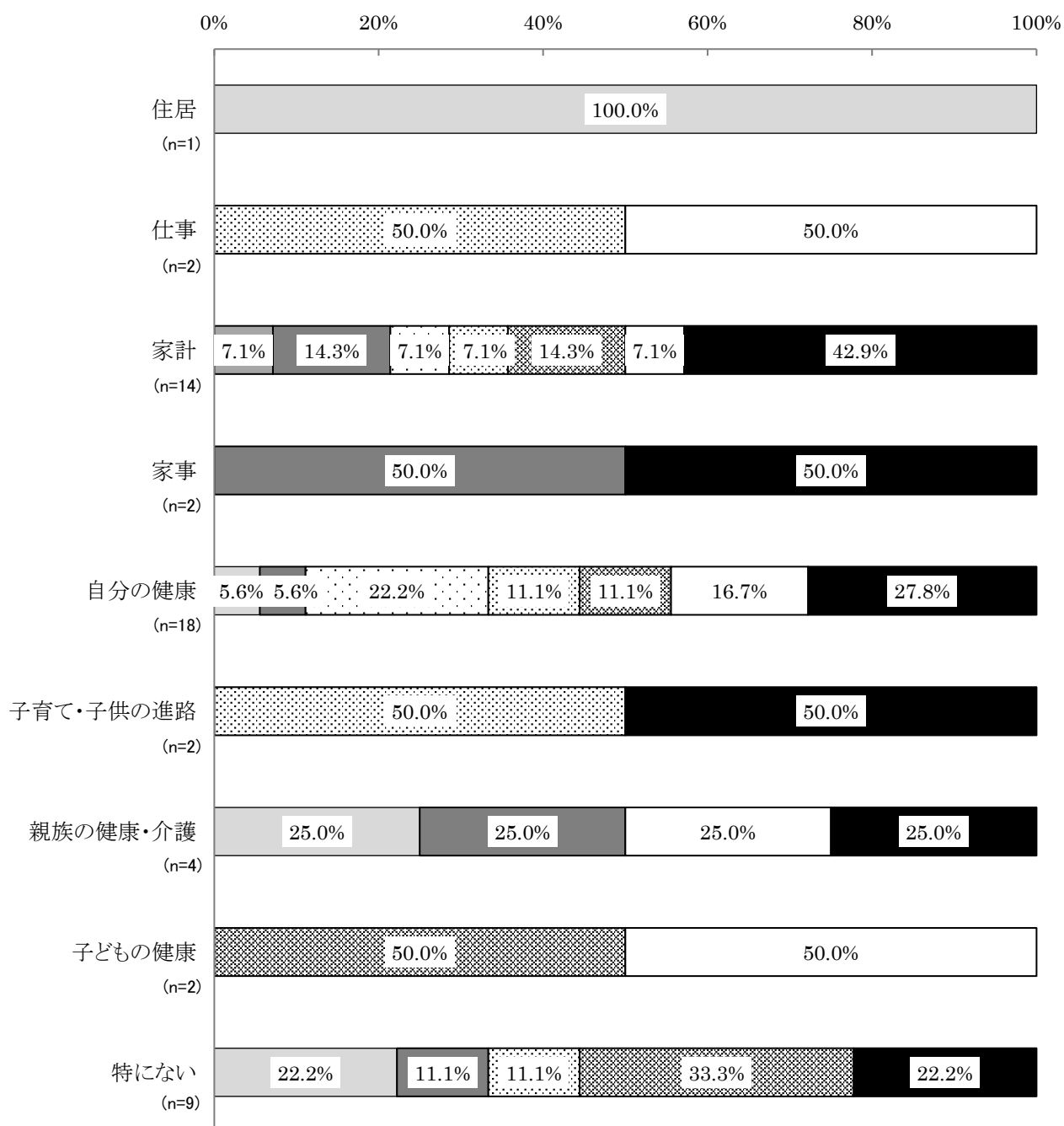
(n=60)



相談窓口があれば良いと思う機能を聞いたところ、「何でも話を聞いてくれる」(31.7%)と回答した人の割合が最も高く、次いで「生活費等に係る経済的支援に関する相談機能」(15.0%)、「各種手続きへの同行」「子供の進学に係る学校等の情報や経済的支援に係る相談機能」(11.7%)、「就労に有利な資格取得のための講座の案内」「養育費や面会交流に係る取り決めや実行に関する専門的な相談支援」(10.0%)、「求人情報とのマッチング」(8.3%)、「履歴書の書き方や面接等のアドバイス」(1.7%)と続いた。

② 現在、困っている事別 相談窓口があれば良いと思う機能

- 求人情報とのマッチング
- ▣ 履歴書の書き方や面接等のアドバイス
- 就労に有利な資格取得のための講座の案内
- 養育費や面会交流に係る取り決めや実行に関する専門的な相談支援
- ▣ 各種手続きへの同行
- 生活費等に係る経済的支援に関する相談機能
- 子供の進学に係る学校等の情報や経済的支援に係る相談機能
- 何でも話を聞いてくれる



現在、困っている事別に、相談窓口があれば良いと思う機能を集計した。

現在、困っている事が「住居」と回答した人が相談窓口があれば良いと思う機能は、「求人情報とのマッチング」(100.0%)であった。

現在、困っている事が「仕事」と回答した人が相談窓口があれば良いと思う機能は、「各種手続きへの同行」「子供の進学に係る学校等の情報や経済的支援に係る相談機能」(それぞれ50.0%)であった。

現在、困っている事が「家計」と回答した人が相談窓口があれば良いと思う機能は、「何でも話を聞いてくれる」(42.9%)、「就労に有利な資格取得のための講座の案内」「生活費等に係る経済的支援に関する相談機能」(それぞれ14.3%)、「履歴書の書き方や面接等のアドバイス」「養育費や面会交流に係る取り決めや実行に関する専門的な相談支援」「各種手続きへの同行」「子供の進学に係る学校等の情報や経済的支援に係る相談機能」(それぞれ7.1%)であった。

現在、困っている事が「家事」と回答した人が相談窓口があれば良いと思う機能は、「就労に有利な資格取得のための講座の案内」「何でも話を聞いてくれる」(それぞれ50.0%)であった。

現在、困っている事が「自分の健康」と回答した人が相談窓口があれば良いと思う機能は、「何でも話を聞いてくれる」(27.8%)、「養育費や面会交流に係る取り決めや実行に関する専門的な相談支援」(22.2%)、「子供の進学に係る学校等の情報や経済的支援に係る相談機能」(16.7%)、「各種手続きへの同行」「生活費等に係る経済的支援に関する相談機能」(それぞれ11.1%)、「求人情報とのマッチング」「就労に有利な資格取得のための講座の案内」(それぞれ5.6%)であった。

現在、困っている事が「子育て・子供の進路」と回答した人が相談窓口があれば良いと思う機能は、「各種手続きへの同行」「何でも話を聞いてくれる」(それぞれ50.0%)であった。

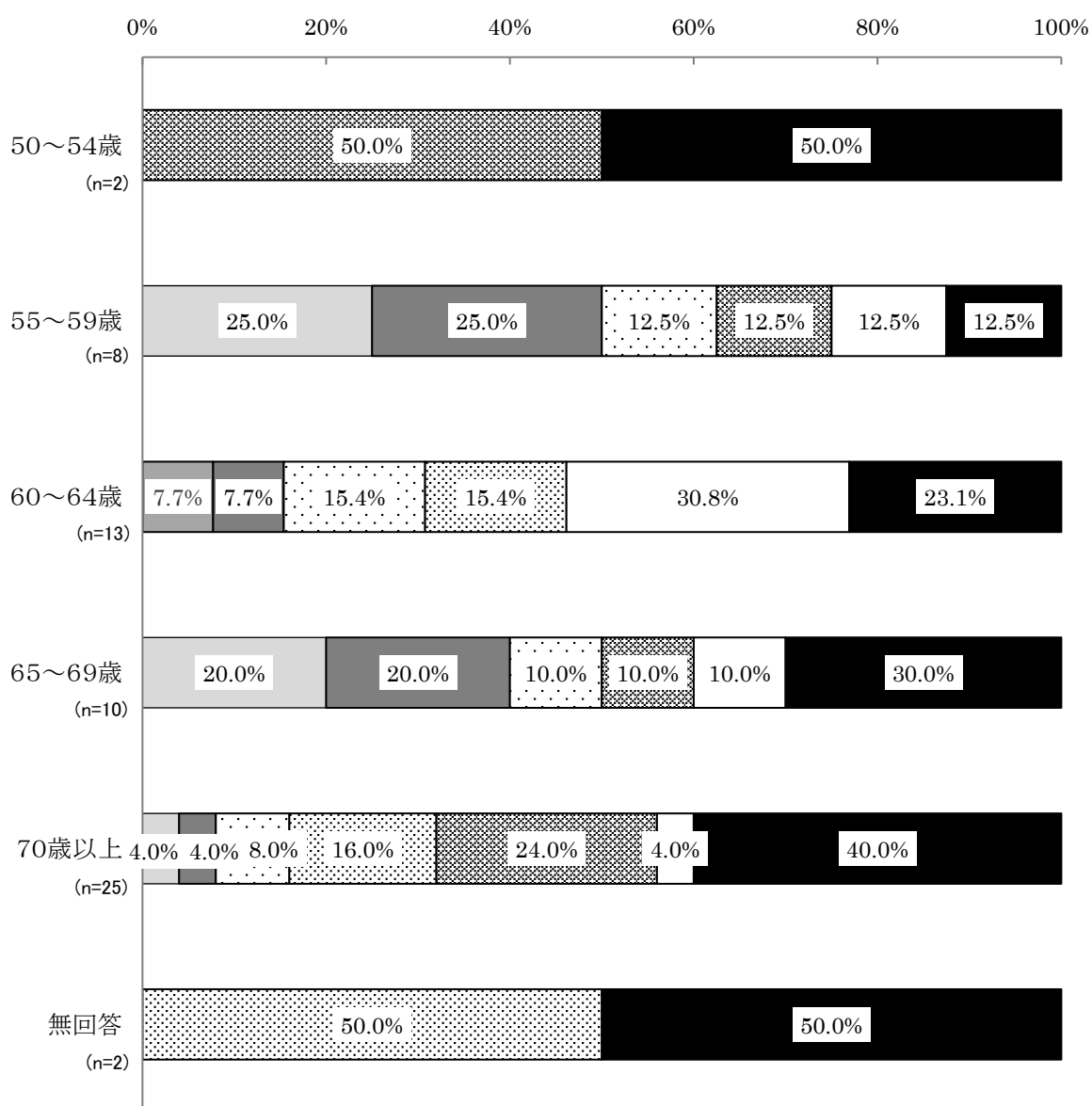
現在、困っている事が「親族の健康・介護」と回答した人が相談窓口があれば良いと思う機能は、「求人情報とのマッチング」「就労に有利な資格取得のための講座の案内」「子供の進学に係る学校等の情報や経済的支援に係る相談機能」「何でも話を聞いてくれる」(それぞれ25.0%)であった。

現在、困っている事が「子どもの健康」と回答した人が相談窓口があれば良いと思う機能は、「生活費等に係る経済的支援に関する相談機能」「子供の進学に係る学校等の情報や経済的支援に係る相談機能」(それぞれ50.0%)であった。

現在、困っている事が「特になし」と回答した人が相談窓口があれば良いと思う機能は、「生活費等に係る経済的支援に関する相談機能」(33.3%)、「求人情報とのマッチング」「何でも話を聞いてくれる」(それぞれ22.2%)、「就労に有利な資格取得のための講座の案内」「各種手続きへの同行」(それぞれ11.1%)であった。

③ 本人の年齢別 相談窓口があれば良いと思う機能

- 求人情報とのマッチング
- 履歴書の書き方や面接等のアドバイス
- 就労に有利な資格取得のための講座の案内
- 養育費や面会交流に係る取り決めや実行に関する専門的な相談支援
- 各種手続きへの同行
- 生活費等に係る経済的支援に関する相談機能
- 子供の進学に係る学校等の情報や経済的支援に係る相談機能
- 何でも話を聞いてくれる



本人の年齢別に相談窓口があれば良いと思う機能を集計した。

「50～54 歳」の人は、「生活費等に係る経済的支援に関する相談機能」「何でも話を聞いてくれる」（それぞれ 50.0%）であった。

「55～59 歳」の人は、「求人情報とのマッチング」「就労に有利な資格取得のための講座の案内」（それぞれ 25.0%）、「養育費や面会交流に係る取り決めや実行に関する専門的な相談支援」「生活費等に係る経済的支援に関する相談機能」「子供の進学に係る学校等の情報や経済的支援に係る相談機能」「何でも話を聞いてくれる」（それぞれ 12.5%）であった。

「60～64 歳」の人は、「子供の進学に係る学校等の情報や経済的支援に係る相談機能」（30.8%）、「何でも話を聞いてくれる」（23.1%）、「養育費や面会交流に係る取り決めや実行に関する専門的な相談支援」「各種手続きへの同行」（それぞれ 15.4%）、「履歴書の書き方や面接等のアドバイス」「就労に有利な資格取得のための講座の案内」（それぞれ 7.7%）であった。

「65～69 歳」の人は、「何でも話を聞いてくれる」（30.0%）、「求人情報とのマッチング」「就労に有利な資格取得のための講座の案内」（それぞれ 20.0%）、「養育費や面会交流に係る取り決めや実行に関する専門的な相談支援」「生活費等に係る経済的支援に関する相談機能」「子供の進学に係る学校等の情報や経済的支援に係る相談機能」（それぞれ 10.0%）であった。

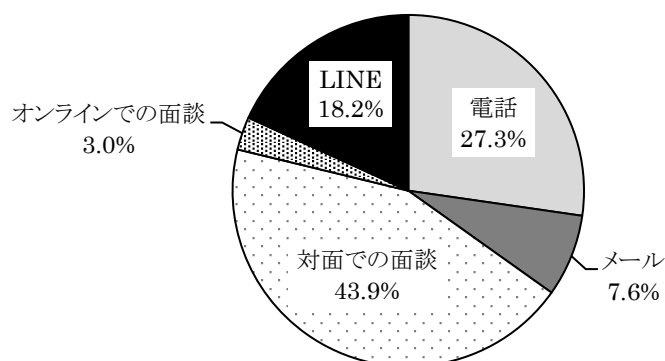
「70 歳以上」の人は、「何でも話を聞いてくれる」（40.0%）、「生活費等に係る経済的支援に関する相談機能」（24.0%）、「各種手続きへの同行」（16.0%）、「養育費や面会交流に係る取り決めや実行に関する専門的な相談支援」（8.0%）、「求人情報とのマッチング」「就労に有利な資格取得のための講座の案内」「子供の進学に係る学校等の情報や経済的支援に係る相談機能」（それぞれ 4.0%）であった。

「無回答」の人は、「各種手続きへの同行」「何でも話を聞いてくれる」（それぞれ 50.0%）であった。

（４）相談しやすい方法

相談しやすい方法を選んでください。【主なものを2つまで選択】

(n=66)



相談しやすい方法を聞いたところ、「対面での面談」（43.9%）と回答した人の割合が最も高く、次いで「電話」（27.3%）、「LINE」（18.2%）、「メール」（7.6%）、「オンラインでの面談」（3.0%）と続いた。

7. 自由意見

年齢	自由意見
60 歳	<p>・ひとり親の家庭状況は、それぞれ違いますので、私の状況調査が参考になるのか疑問です。</p> <p>・ひとり親は、子供を一人で見て育てていけないといけないので、色々と問題をかかえていると思います。只、その問題はそれぞれ違います。経済面だったり、子供の事だったり、親の事だったり、仕事だったり…。その問題をそれぞれ抱えながら皆生きている、私の身近にもそんな会員さんがいて心配です。一人でかかえこまないで相談をして欲しいと思うのですが、なかなか難しい状況です。それは、ひとり親だけの問題ではないから…。ひとり親を取りまく環境、親、先生、子供なども含めて皆で良い環境を作る事が大事です。でもそれが中々出来ない…。</p> <p>・人を思いやる、人を許す、人を愛する…そんな事が出来ていない…親子でさえ…いえ、親子だからこそ、根深いのかもかもしれません。</p> <p>・昨年の研修会でこども家庭庁より子供の声を聞いてくださいと言われました。弱者である子供が幸せになれるように、子供を守っていきたい、ひとり親の子供であっても、二人親の子供と同じように幸せに過ごせる環境作りを制度を支援を声掛けを…今後もさしのべていただきたいです。よろしくお願いします。</p>
61 歳	<p>子供が18歳を迎えると色々な補助が外れ、何もかも自分で頑張らないといけなくなるが、我が家は障害者の長男がおり、その進路が自分の終活の大きな部分を占める。私にもしもの事があれば長男を観る人は他に誰も居ない。障害者の制度を利用したくとも、どこもヘルパー不足、施設不足で実際には全くといっていいほど使えない。子どもに障害児（者）がいる場合の何らかの手立てがあつたら助かるのに、と思っている。</p>
67 歳	<p>ひとり親になってからが長く、母子の時にこういう制度があつたらよかつたなあと思います。寡婦になってからも20年以上経っていてこのアンケートは寡婦対象ということだったので実際は母子に関する事ばかりで選ぶのにとまどい考えることが多かつたです。母子（父子）については制度も支援もたくさんありますが寡婦についてはほとんどなく利用するような制度がありません。年金は入ってきてても保険料等を差し引かれると少なく私はまだ働いているので良いのですが、年金だけの人達は収入が少なくとても生活が苦しいのが現状です。未来の子供達のために色々支援があり、今の時代は私達が母子だった時代よりはるかに恵まれていると思います。寡婦よりも母子（現在子育て中）のお母さん達にアンケートを取られた方が良かったと思います。</p>
68 歳	<p>広島県ひとり親家庭等福祉連合会の事業として、「日常生活支援事業」がありますが、今年度は坂町のみ実施となっております。他の地域での利用もできるよう、広げることは難しいのでしょうか？又、家庭生活支援員を派遣するようになっていますが、実情はどのようになっているのでしょうか。利用状況等知りたいです。</p>
69 歳	<p>最初のページの記入欄で、西暦が多い。昭和時代は西暦がなかったので調べるのがめんどくさかつたです。寡婦へのアンケートの時はどちらでも記入できるようにしていただくと助かります</p>

73 歳	私は現在 73 才です。お問い合わせのアンケート内容は、全てひとりで解決してきました。今は健康面からも就職は困難です。現在のような支援（大変手厚い）があればあれほど無理をしなくても良かったと思います。自分の体験を通して、現在はひとり親の自立支援を行っています。今のひとり親は幸せだなと実感しています。
74 歳	お世話様になりありがとうございます。
75 歳	今から約 40 年程前のこと、人の良い夫がだまされて知人の連帯保証人になり行方知れず、義兄により離婚の選択を…毎夜子供達の寝顔を見るにつけ枕の濡れない日がなかった。明日の来ない夜はないと思い乍ら過ごした私も今では後期高齢者となり一人暮らしの日々ですが子供達 3 人それぞれにとっても良くしてくれます。良き配偶者に出会いつつ“人の心の痛みが解る人間”にと常々言い聞かせた通りの子供 3 人です。縁した方々、あらゆる機関等に感謝です。ありがとうございます。合掌
76 歳	暮らしの諸届について（広報）各種税額について算出例が詳しく説明してあるのは一般的な家庭例です。分からないわけではありません。今日さまざまな支援を行っているのであれば母子、父子寡婦家庭に分かりやすい説明を載せていただきたいと思います。
77 歳	行政の手続きが大変である。スマホの手続きが大変である。コミュニケーションのない今の時代、人間関係がうまく出来ない言葉のコミュニケーション等、今からの時代すごく不安がある。
79 歳	以前息子が修学資金借りまして、1 回銀行からおちてなく、TEL が親の所へ TEL かかってきました。以前にもあったと、それは役所がみおとしていたものでした。二回も支払わないとすごい剣幕で、こういう風を書いて銀行の口座を変えるようにするようにといわれました。紙に書いて渡されました。見本をみせ、どなられました。子供の所に連絡すべきとは思いました。あくる日役所に TEL するとその女性はまだ出勤していませんでした。人におお文句を云っていて、自分の事はいいかげんでした。このような人が窓口にいるのは、どうかと思います。私だけでなく他の人も同じ様な事があったみたいです。文句だけ云うのは、誰でもできる。私の愚痴です。
82 歳	既に 80 才を越した老人です。現在の世の中子どもに対してすごく恩典がありますよね。我々の時代は年金の方からはいただきましたが全くありませんでした。今思う時、世の中とてもぜいたくになっていると思います。食べる物が無いと言うような思いをしたことはありません。一生懸命 60 才の定年まで働きました。子供も学校卒業の時は大手企業の就職があまたありましたし時代的には幸運でした。
84 歳	若いひとり親に調査すべきです。
89 歳	今年（2024）11 月で満 90 才を迎えます。60 才から公的年金を受給し、自己の健康管理、家の維持管理、家と家との交際付き合い等々全て年金で賄っております。そのため回答しにくい欄もありますことご了承下さい。定年退職後は地域の福祉にかかわってご奉仕させていただいて今日に至っております。特に若い世代の“ひとり親家庭”の父母が安定した就労で子育てが出来る社会の確立をひたすら願っております。今後とも福祉行政のさらなるお力ぞえをお願いします。
90 歳	42 歳でひとり親になりましたが特に問題なく過ごしました。

Ⅲ 調査票

問1 あなたの生年月を記入してください。(数字を記入)

西暦 () 年 () 月

問2 あなたのお住まいはどの市町ですか。

市・町

問3 あなたの世帯人員(同居者のみ ※別居しているお子様は含まない。)は何人ですか。
該当する区分ごとにそれぞれの人数を記入してください。(数字を記入)

あなたの父母	() 人
あなたの子ども	() 人
あなたの兄弟姉妹	() 人
あなたの祖父母	() 人
その他 ()	() 人

問4 あなたがひとり親世帯になった時期を記入してください。(数字を記入)

西暦 () 年 () 月

問5 あなたがひとり親世帯になった理由はなんですか。(○は1つ)

1. 死別	4. 配偶者からの遺棄
2. 離婚	5. 行方不明
3. 未婚で出産や養子縁組	6. その他

問6 あなたの最終学歴をお答えください。(○は1つ)

1. 中学校	5. 大学・大学院
2. 高等学校	6. 専修学校・各種学校
3. 高等専門学校	7. その他
4. 短大	()

お子様についておたずねします。

※お子様が6人以上いらっしゃる場合は、第6子以降のお子様についての回答用紙をお送りいたします。お手数ですが、広島県こども家庭課までご連絡ください。

(こども家庭課 電話：082-513-3173)

問7 あなたのお子様(別居しているお子様も含む。)について、各項目にそれぞれお答えください。

問7-(1)あなたのお子様(別居しているお子様も含む。)の人数と、お子様の生年月を記入してください。(数字を記入)

お子様の人数	() 人
第1子	西暦 () 年 () 月
第2子	西暦 () 年 () 月
第3子	西暦 () 年 () 月

第4子	西暦()年()月
第5子	西暦()年()月

問7-(2) お子様の現在の就学・就業状況をお答えください。(○はそれぞれ1つ)

第1子	1. 短大 2. 大学・大学院 3. 専修学校・各種学校	4. その他() 5. 就業 6. 就学・就業していない
第2子	1. 短大 2. 大学・大学院 3. 専修学校・各種学校	4. その他() 5. 就業 6. 就学・就業していない
第3子	1. 短大 2. 大学・大学院 3. 専修学校・各種学校	4. その他() 5. 就業 6. 就学・就業していない
第4子	1. 短大 2. 大学・大学院 3. 専修学校・各種学校	4. その他() 5. 就業 6. 就学・就業していない
第5子	1. 短大 2. 大学・大学院 3. 専修学校・各種学校	4. その他() 5. 就業 6. 就学・就業していない

<問7-(2)で「4. その他」「5. 就業」「6. 就学・就業していない」と回答した人におたずねします>

問7-(3) お子様の最終学歴をお答えください。(○は1つ。ただし、該当するお子様が複数いて、最終学歴が異なる場合は、該当するものすべてに○)

1. 中学校	5. 大学・大学院
2. 高等学校	6. 専修学校・各種学校
3. 高等専門学校	7. その他
4. 短大	()

就労の状況についておたずねします。

問8-(1) あなたの現在の雇用形態について、お答えください。(○は1つ)

1. 正規の職員・従業員	5. 家族従事者
2. 労働者派遣事業所の派遣社員	6. その他()
3. パート・アルバイト等	7. 不就業
4. 自営業	

<問8-(1)で「7. 不就業」と回答した人におたずねします>

▶問8-(2) 就職する希望がありますか。(○は1つ)

1. 就職したい(求職中である)	3. 就職は考えていない
2. 就職したい(求職中でない)	

⑧母子父子自立支援プログラム策定事業 児童扶養手当受給者個々の希望、事情等に対応した自立支援プログラムを策定し、ハローワーク等と連携して、就業に結び付け	1	2	3	4
⑨ファイナンシャルプランナーによる相談事業 ファイナンシャルプランナーによる家計相談の実施	1	2	3	4

問9-(2) 問9-(1)で1～2のいずれかを選んだ支援策について、どこで知りましたか。

(あてはまるすべてに○)

	子供の通う学校	市町の福祉事務所	広島県ひとり親家庭サポートセンター	広島市母子家庭等就業・自立支援センター	インターネット	覚えていない
①児童扶養手当	1	2	3	4	5	6
②自立支援教育訓練給付金事業	1	2	3	4	5	6
③高等職業訓練促進給付金事業	1	2	3	4	5	6
④高等職業訓練促進資金貸付事業	1	2	3	4	5	6
⑤ひとり親家庭等日常生活支援事業	1	2	3	4	5	6
⑥短期入所生活援助事業(ショートステイ)	1	2	3	4	5	6
⑦夜間養護等事業(トワイライトステイ)	1	2	3	4	5	6
⑧母子父子自立支援プログラム策定事業	1	2	3	4	5	6
⑨ファイナンシャルプランナーによる相談事業	1	2	3	4	5	6

世帯の収入についておたずねします。

問10 令和5年のあなたの世帯の年間総収入、あなた自身の年間総収入及び年間就労収入の金額を記入してください。(数字を記入)

(年間総収入には、全ての収入(生活保護法に基づく給付、就労収入、親からの仕送り、家賃・地代の収入等)を含めてください。詳細な金額が分からない場合は、概ねの金額を記入してください。)

同居親族を含むあなたの世帯の年間総収入	()万円
あなた自身の年間総収入	()万円
あなた自身の年間就労収入	()万円

全般についておたずねします。

問11 あなたが困っていることについて、ひとり親になった当時と現在それぞれお答えください。

問 11-(1) ひとり親になった当時 (○は最もあてはまるもの1つ)

1. 住居	6. 子育て・子供の進路
2. 仕事	7. 親族の健康・介護
3. 家計	8. 子どもの健康
4. 家事	9. その他 ()
5. 自分の健康	10. 特にない

問 11-(2) 現在 (○は最もあてはまるもの1つ)

1. 住居	6. 子育て・子供の進路
2. 仕事	7. 親族の健康・介護
3. 家計	8. 子どもの健康
4. 家事	9. その他 ()
5. 自分の健康	10. 特にない

問 12 あなたは次の相談窓口等を利用したことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

	知っている		知らない	
	利用したことがある又は利用している(今後利用予定含む)	利用したことはなく、今後も利用するつもりはない	今後、利用したい	利用したくない
①市区町窓口 母子・父子自立支援員がひとり親家庭の抱える悩み全般についてお聞きし適切な支援につながります。	1	2	3	4
②広島県ひとり親家庭サポートセンター 又は 広島市母子家庭等就業・自立支援センター 就業相談や職業紹介のほか養育費等専門相談に応じています。	1	2	3	4
③AI を活用したひとり親家庭相談システム (AI チャットボット) 24時間365日、自分の知りたい情報にアクセスしやすくなるよう、「広島県ひとり親家庭サポートセンター」の公式LINEで情報を提供しています。	1	2	3	4

問 13 相談窓口があれば良いと思う機能は何ですか。(主なものを2つまで選択)

1. 求人情報とのマッチング	5. 各種手続きへの同行
2. 履歴書の書き方や面接等のアドバイス	6. 生活費等に係る経済的支援に関する相談機能
3. 就労に有利な資格取得のための講座の案内	7. 子供の進学に係る学校等の情報や経済的支援に係る相談機能
4. 養育費や面会交流に係る取り決めや実行に関する専門的な相談支援	8. 何でも話を聞いてくれる

問 14 相談しやすい方法を選んでください。(主なものを2つまで選択)

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. 電話 | 4. オンラインでの面談 |
| 2. メール | 5. LINE |
| 3. 対面での面談 | 6. その他 () |

問 15 ご自由に記入してください。